

授業における語の接触方法および接触回数の 増加が語彙学習に与える効果

—クラスの中位・下位層に着目した分析—

The Effects of Increase of Contacts and the Way of Contacts for Vocabulary Learning
—An Analysis Focusing on Middle and Lower Level Students in the Class—

相澤早帆

AIZAWA Saho

【要旨】 筆者の勤務する日本語学校では、語彙の授業は、毎日の小テストや問題演習などがなされることが多いが、近年、日本語に限らず「勉強する」ことに対して積極的になれない学習者も増えており、テスト等での毎日積み重ねるような学習に躓いてしまう学習者も多くなってきた。

語彙の有効的な学習として読解付随のものが多く唱えられているが、同時にどの程度の接触があれば、その語を理解・産出できるようになるのかという疑問も出てくる。田丸(1998)は読解の前段階として、ある程度の語彙量を集中的に学習させることの必要性を示した。集中的な学習は、学習者の達成感にもつながったようだ。しかし、語彙の意味を調べることの比重が大きくなり学習者の負担が大きかったことなど課題点も報告された。

本研究では、日本語学校で学ぶ学習者を対象に、①語の接触回数を増加させる練習、②読解ではなく短文での練習、③語彙の意味調べという負担を取り除いた集中的な語彙学習、これら3点が、継続的な学習や授業での問題演習等に対する意欲が低い、クラスの中位・下位層の学生の語彙学習に影響を与えるのかどうかを調査した。実験授業の前後に同一のテストを実施し、その変化を分析した。結果として、どのレベルにも効果がみられたが、特に中位・下位層に有効であることがわかった。また、接触方法の多様性が語彙学習のハードルを下げた可能性も示唆された。さらに、授業後アンケートから、学習者自身も調査授業に対して有用性や必要性を感じたことが示された。

【キーワード】 語彙学習、接触回数、教師の説明、繰り返し練習、学習意欲

[Abstract] At the Japanese language school where the author works vocabulary learning is frequently provided through daily short tests and exercise problems. In recent years however, there has been an increase in the number of students displaying an inadequate enthusiasm to study not only Japanese but to study in general, and there are more and more students who stumble and fail in the face of tuition consisting of tests and repeated daily tuition.

Reading comprehension accompanied by interpretative commentaries has been widely advocated as a means for effective vocabulary learning, but simultaneously these raise the problem of whether or not the words can be understood or generated according to the extent of the contact that takes place. Tamaru (1998) indicated that it is essential to implement the concentrated learning of a certain quantity of vocabulary prior to the comprehension stage. Apparently Tamaru found that concentrated learning is linked to a sense of achievement among learners. However, she also reported that this practice places a burden upon those learning, as they have to spend a relatively large amount of time researching the meaning of the vocabulary that they have been taught.

In my research I attempted to implement the following three practices: 1) learning in which there was an increased number of times that contact was made with words; 2) practice using writing short sentences rather than comprehension; and 3) concentrated vocabulary learning in which the burden of researching the meaning of words was reduced. I investigated what sort of influence these three practices exerted upon the vocabulary learning of the students in the intermediate and lower strata of the class, the students whose volition regarding continuous learning and problem practice during lessons was relatively low. I conducted a common test both before and after the experimental tuition, and analyzed the results. The results showed some efficacy among all the students, regardless of whether they were in the higher, intermediate or lower levels of the class, but this efficacy was most notable among the intermediate and lower level students. Furthermore, the results also suggested the possibility that diversity in the contact methods led to a lowering of the hurdle of vocabulary acquisition. Finally, the questionnaire conducted after the lesson indicated that the learners themselves also felt the usefulness and necessity for research-based teaching.

[Key Words] Vocabulary learning, contact frequency, teacher explanations, repeated practice, volition to learn

1. はじめに

外国語学習において語彙学習が必要不可欠であることは明白だが、同時に「語彙学習＝暗記」というイメージから学習者が苦手意識を持つことも多い。一度語彙学習に苦手意識を持ってしまえば、その他の技能においても躓いてしまうという、学生も少なくない。そのため、どのような授業での取り組みが必要なのか、さらに、どこまで授業で取り扱うべきなのか、どれほどの時間を割くべきなのかということは教師を悩ませることの一つではないだろうか。

筆者が勤める日本語学校では、学生は大学進学を目的として勉強している。留学生試験対策や入試対策にも取り組まなければならない、語彙学習については、毎日の語彙テストや問題演習などを授業内でやっているものの、学生個人の自学に任せている部分も少なくない。しかし、テストなどで毎日積み重ねることができる学生は少なく、諦めてしまう学生も多い。学生のレベルにもよるが、筆者の担当してきたクラスでは、問題演習においても、その授業内、教材内ではできても、翌日まで記憶されていることはほぼなかった。また、授業内での取り組みに対する意欲によって学習者の語彙量に差が出てしまっていた。

そのため、テストや問題演習を続けて行っていくというような授業での取り組みが、学習者の語彙力に繋がっているのかどうか疑問を覚えるところであった。

2. 先行研究

従来、有効な語彙学習として唱えられているのは読解付随のものが多い。文脈の中で、語の意味を推測したり、学習者自身が持っているスキーマを働かせることで新出語でも理解したりすることができると考えられ、読解が語彙学習に与える影響は大きいとされている。それと同時に、

語を覚えるには、その語に何回触れればいいのかという疑問も出てくる。Rott (1999) では、リーディングでの新しい語彙の獲得はできるか、リーディングでの接触は長期記憶に影響するか、そして、語の接触回数によって変化が見られるかどうかを、読解付随の実験授業を行って調査した。接触回数は2・4・6回とグループを分けた。実験授業終了後の試験結果から、2・4回のグループには効果に差は見られなかったが、6回のグループには語彙知識の増加が見られたと報告されている。

一方、田丸 (1998) は、語彙の学習は「読む」ことを通して行うことが伝統的だと考えられているとしつつ、読解の前段階として、ある程度の語彙量を集中的に学習させることの必要性を示した。この調査では、学習者の専門分野に特化した語彙を、単なる語彙リストにならぬよう5行から10行程度の文脈の中で提示を行った。また、文法や聴解など、語彙以外の部分に焦点が当たらないようにし、毎回の授業でその日に学習する語彙のクイズを行った。結果として、語彙を集中的に学ぶことに対する学習者の反応が良かったことが報告された。語彙・表現に対する意識が高まり、自主的に語彙学習に取り組む様子があったようだ。加えて、語彙知識の拡大を自分で実感できたことが学習意欲につながったことが示唆されている。一方で、語彙の意味を調べることの比重が大きく学習者の負担が大きかったこと、文法に重きを置かなかつたことで、構文を把握する力は弱いままだったことも認識された。

3. 調査目的

これらの先行研究を踏まえ、本研究では①語の接触回数を増加させる練習、②読解ではなく短文での練習、③語彙の意味調べという負担を取り除いた集中的な語彙学習、これら3点が、継続的な学習や授業での問題演習等に対する意欲が低い、クラスの中位・下位層の学生に効果があるかどうかを調査することにした。クラスの上位・中位・下位は後述する事前テストの結果によって振り分けた。そして、今回の調査においての「学習意欲の低さ」は、語彙学習だけではなく、授業全体を通して積極性が見られないことから筆者が判断した。例えば予習・復習を行わない、宿題に取り組まない、授業時に携帯電話にばかり気を取られてしまうといった学生が挙げられる。近年、日本語学校にはこのような日本語に限らず、「勉強する」ということにおいて積極的に学べない学習者も増えてきており、大学受験につながるような授業をすることの困難さがあることも、ここで述べておきたい。

4. 調査概要

日本語学校の初中級クラスで学ぶ中国人学習者21名のうち、後述の実施テストを2つとも受験した12名の学生を対象とした。使用教材は『新完全マスター漢字 日本語能力試験N2』で週に1回45分程度の授業を合計8回（うち、授業6回、テスト2回）行った。日本語学校の1日の授業はこの調査授業1コマの他に文法や聴解など合計4コマある。実施期間は2016年10月から12月と、約3か月にわたった。

4.1 調査手順

使用教材の既習範囲から調査語、非調査語を選出し調査語のみ接触回数を意図的に増加させた授業を実施した。その効果を見るために、調査授業の前後に事前テストと事後テストを行った。そして、事前テストの結果から、調査対象者を上位・中位・下位の3層に分けてその変化を分析した。3層は事前テストの正答率から上位4人(80%以上)、中位4人(60-79%)、下位4人(59%以下)とした。加えて、事後テスト後にアンケートを実施した。

また、初回授業時には調査授業についてのオリエンテーションも行った。後述するように、この調査では対象語を和語動詞に限定したのだが、和語動詞に焦点を当てることについての説明や、問題が解けるだけではなく産出ができるようになることの重要性などを示し、授業の目的を示した。

4.2 語の選定

語種による特徴が出ないよう、使用教材内の和語動詞に限定した(例:積む、採る)。中国人学習者にとって和語動詞の産出は難しいとされており、その原因として語の多義性が指摘されることがある。(森山2013、2015)。このことから、見て意味を推測できる可能性のある漢語語彙より、多義性があるために、その意味を考えなければならない和語動詞(例:荷物を積む、経験を積む)のほうが、接触回数を増加させた練習での効果の差が見えやすいのではと考えた。

使用教材の第31-40回の中で学習語彙とされている和語動詞114語から、敬語表現(例:敬う、承る、召し上がる等)や、使う場面が限られている語(例:殺す、刷る、掃く等)、初級の段階で多く出てきていたもの(例:捨てる、拾う、焼く等)を除外した。それ以外の語が47語となり、その中から、授業時に学生の正答率が低かったものを主観判定で30語選出した。30語を半分に分け、それぞれ15語ずつを「調査語」と「非調査語」とした。30語は多義性に程度の差があったため、多義性が高いものを「調査語」、低いものを「非調査語」とした。多義性の低い語は、理解・習得も早く、授業での集中的な扱いがなくても学習者が産出できる可能性が高いと思われたからだ。

例) 寄せる = 多義性が高い語

- ①あるものを別の所に近づける。(例:机を窓際に寄せる。)
- ②1か所に集める。寄せ集める。(例:道端にごみを寄せる。)
- ③あるものに対して気持ちを傾ける。(例:彼女に好意を寄せる。)
- ④意見や品物などを送ってあるとことに集まるようにする。
(例:モニターが本部に情報を寄せる。)
- ⑤数を数える。(例:2に3を寄せるると5になる。)
- ⑥あるものに関係づける。(例:終戦記念日に寄せて感慨を述べる。)
- ⑦そこを頼りにして仮の住まいにする。(例:伯父の家に身を寄せる。)
- ⑧訪問することを感謝の気持ちを述べて言う。(例:近々寄らせてもらいます。)
- ⑨料理で、煮溶かした寒天・ゼラチンなどを型に入れて固める。(例:葛を寄せる。)

(『明鏡辞典第2版』)

祈る = 多義性が低い語

- ①よいことが起こるようにと神や仏に願う。祈願する。(例：世界の平和を祈る。)
- ②他人の幸せを切に望む。かくあれかしと念ずる。(例：大会の成功を祈っております。)

(『明鏡辞典第2版』)

表1 使用語彙一覧

調査語	荒れる／及ぶ／逆らう／占める／詰まる／積む／採る／伸びる ／挟む／巻く／招く／恵まれる／許す／寄る／寄せる
非調査語	嫌がる／祈る／恐れる／固まる／構う／枯れる／刻む／嫌う／ 超える／救う／散る／照る／昇る／述べる／蒸す

4.3 実施テスト

事前、事後テストは同一のテストを使用した。合計30問を文の中に語を穴埋めする形式で出題した。対象語の辞書形をひらがなで提示した。提示した理由としては、対象語以外を学習者が使用しないようにしたかったからである。また、ひらがなでの提示にしたことで漢字による類推を避けさせた。(資料1) テストに使用した語義は、使用教材内で使われていたものとした。

5. 調査前の選定語との接触

使用教材は1日1課(教材内では第～回と呼ぶ)で進めた(資料2)。1課は大問が5つからなり、聴解問題を除いて30語程度が漢語・和語関係なく問題とされている。学生には授業内に自分で問題を解かせ、その後、クラスで答え合わせをした。その際の辞書の使用は可としていた。次の日、前日の課から何問か選び、ディクッションで20問ほどの小テストを行っていた。定期的なまとめテスト等はなかった。つまり、通常の授業内で最低2回は選定語に接触していたことになる。

6. 調査授業について

調査授業では、平山(2016)の手順を参考とすることとした。平山(2016)では、漢字語彙が対象ではあったが、学生の自宅学習の部分も含め、Nation(2013)の「語の学習に必要な接触回数は最低でも10回以上、望ましくは20回」という考えに近くなるよう、実践の中で13回(漢字表記では6回)触れるように設定していた。この調査では、授業内での「調査語」の接触回数が10回となるよう、表2のように設定した。「非調査語」はこの調査授業内では触れなかった。

表2 授業手順について

①語の提示→読み方の確認、音読
②意味の確認（辞書利用可）
③例文提示（2～3つ）：用法や意味の確認
④例文音読
⑤文作り（空欄補充／前件・後件作り／全文）
⑥教師によるチェック⇒訂正
⑦復習プリント（翌週）
⑧復習プリントの答え合わせ⇒訂正
⑨授業内での学習した語（調査語以外）を含めた語彙のクイズ
⑩練習した例文をランダムでクイズにし翌週の授業で復習（パワーポイント使用）

手順①～⑥は1枚のプリント教材を使用した（資料3）。語の提示では、漢字の形の確認から行い、音訓読み等の基本的な確認も行った。その後、辞書での意味確認、例として挙げた短文を使って、さらに具体的な意味の確認や文法事項も含めた用法の確認を行った。そして、例文を声に出して読む音読も接触回数1回分として数えた。そのプリントの最後には短文作成タスクを取り入れた。翌週行った復習手順⑦・⑧も1枚のプリント教材を作成した（資料4）。このプリントでは、語の意味や用法、および漢字の読み方も復習できるようにした。また、全文／前件のみ／後件のみ、と語によって内容は異なったが、短文作成タスクを取り入れ、学習者が意味と活用の両方に注意して産出練習ができるように考えた。手順⑨では、調査語にその日1日の授業内（調査授業以外も含む）で扱った語を足し、語彙のクイズを行った。手順⑩では、パワーポイントで調査授業内に扱った例文の穴埋めクイズを作成し、学生には口頭で答えさせた（資料5）。

7. テスト結果

7.1 事前テストの結果

表3は事前テストの層ごとの正答率の平均値である。下位層の調査語正答率は28.3%と極めて低い。下位層の学生は、時間内に問題が解き終わらずに諦めてしまった学生もおり、今までの問題演習や小テストは効果的な語彙学習に繋がっていなかった可能性が考えられた。中位層の調査語正答率は63.3%となり、定着している語もあるように思える。しかし、誤答の傾向を見てみると、そもそも正しい選択肢が選べていない①意味的な間違い、正しい語は選べているものの②活用間違いとどちらも見られた。特に②活用の間違いについては、ただ単に形や辞書形などが正確に書けていないといった変形の間違いも見られたが、それだけではなく、文全体から意味を考え過去形や受身形にすることができていないというものも見られた。今までの語彙授業では、語の意味や活用の部分に置いて記憶に残りにくかったことや、文の中で大体の意味は分かっているにもかかわらず使用出来てはいなかったことが推測された。

誤答例) ②活用の間違い

「及ぶ」：この映画は4時間にも及び長いものです。(正解：及ぶ)

「占める」：地球上で海が占めて面積の割合は、全体のおよそ10分の7だと言われている。

(正解：占める／占めている)

「寄せる」：台風の被害を受けた地域に寄せた寄付金は3000万円を超えた。(正解：寄せられた)

表3 事前テスト 層ごとの正答率平均値

		事前テスト
上位層	調査語	81.7%
	非調査語	96.7%
中位層	調査語	63.3%
	非調査語	68.3%
下位層	調査語	28.3%
	非調査語	45.0%

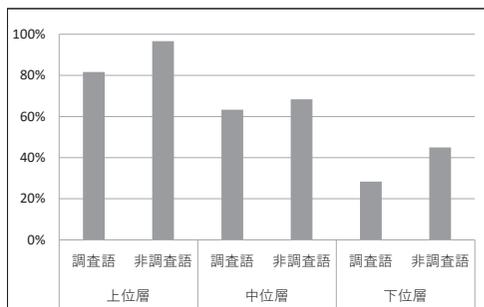


図1 事前テスト 正答率平均値

7.2 事後テストの結果

層ごとの結果を見てみると、中位層は63.3%から81.7%へと、約20ポイントの上昇があった。そして、下位層においては、調査語正答率が28.3%から76.7%へと約48ポイントの大幅な上昇が見られた(表4)。

表4 事前／事後テスト 層ごとの正答率平均値

		事前テスト	事後テスト
上位層	調査語	81.7%	93.3%
	非調査語	96.7%	98.3%
中位層	調査語	63.3%	81.7%
	非調査語	68.3%	71.7%
下位層	調査語	28.3%	76.7%
	非調査語	45.0%	65.0%

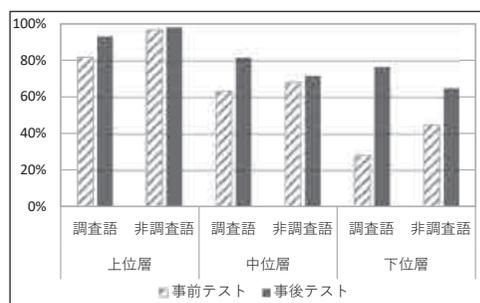


図2 事前／事後テスト 正答率平均値比較

誤答の傾向には、各層とも大きな変化は見られず、①意味的な間違い、②活用の間違いとどちらも見られた。しかし、下位層は問題が解き終わらなかったという学生はいなかったようで、この点は事前テスト時と大きく異なると言える。

7.3 語ごとの正答率の変化

学習者の層ごとの正答率の変化では、調査語も非調査語も上昇していた。しかし、語個別に分析してみると、調査語と非調査語で違いが見えてきた。まず調査語では、ほぼすべての語に正答率の上昇が確認できたが、正答率が変化しないものもあった。正答率の伸び率を高い順に並べ

たものが図3のグラフである。各語には本稿内での説明の便宜上、左から順に番号を振った。これを見てみると、(15)「許す」の伸び率はゼロであったが、事前テストの時点で正答率が高かったことがわかり、「伸びなかった」というわけではなく、もともと理解していた語だったが調査授業後でもその理解度が変わることがなかったといえるだろう。その他の語では、事前テストで正答率が低かったものはもちろん（例：(1)招く、(2)伸びる、(3)恵まれる）、事前テストでの正答率が高かったもの（例：(8)採る、(13)逆らう、(14)巻く）も正答率が上昇しており、ほぼ100%の正答率となっているものもある。また、(7)「寄せる」の変化にも注目したい。伸び率としては、約20ポイント程度ではあるのだが、(7)「寄せる」は事前テストでの正答率が0%であった。これは、使用教材における使用語義が、「意見や品物などを送ってあるところに集まるようにする。」(『明鏡辞典第2版』) というもので、活用形を「寄せられた」という受身形にしなければならない問題であった。(使用教材内提示文：台風の被害を受けた地域に寄せられた寄付金は3000万円を超えた。) 語義を理解し、なおかつ形を考えなければならない点で非常に難しかったと考えられる。そのため、伸び率としては低いとしても、調査授業の効果は出ていると言えるだろう。

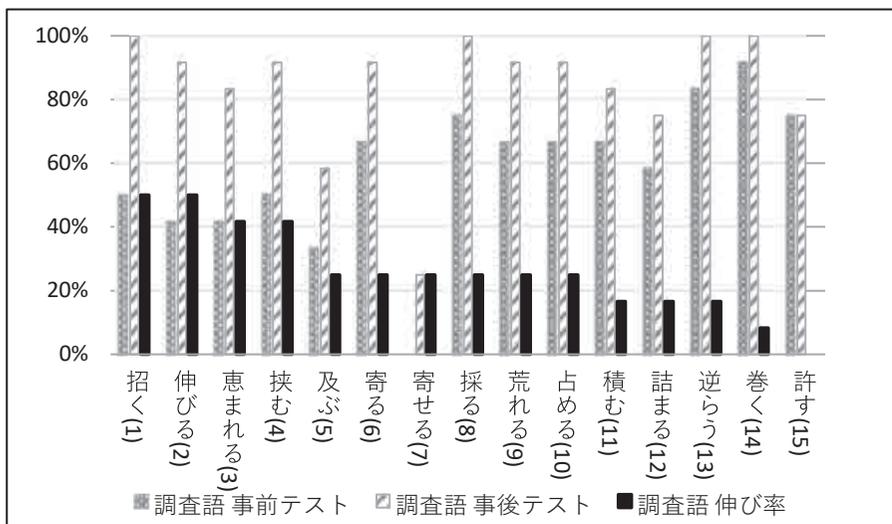


図3 調査語 事前／事後テスト正答率比較

一方、非調査語は大きく上昇した語（例：(1) 超える、(2) 照る）もあるが、正答率が下がってしまった語（(11) 述べる、(12) 散る、(13) 昇る、(14) 祈る、(15) 嫌う）もあった。図4が非調査語の正答率を伸び率の高い順に並べたものである。下がってしまったものはどれも、事前テストでは正答率が高いものであった。特に、(11)「述べる」や(14)「祈る」は語義も少なく、学習者にとっても理解しやすいものであると思われていた。また、「昇る」「散る」は、語義はいくつかあるが、この2語は教材内では「花が散る」「日が昇る」といった特定の語と組み合わせられて使用されることが多く、こちらも学習者にとって理解および記憶しやすいものだと予測していたが、今回の結果から、語義が少なく、特定の使われ方をしているにもかかわらず、記憶しやすいとは言えないということが推測できた。

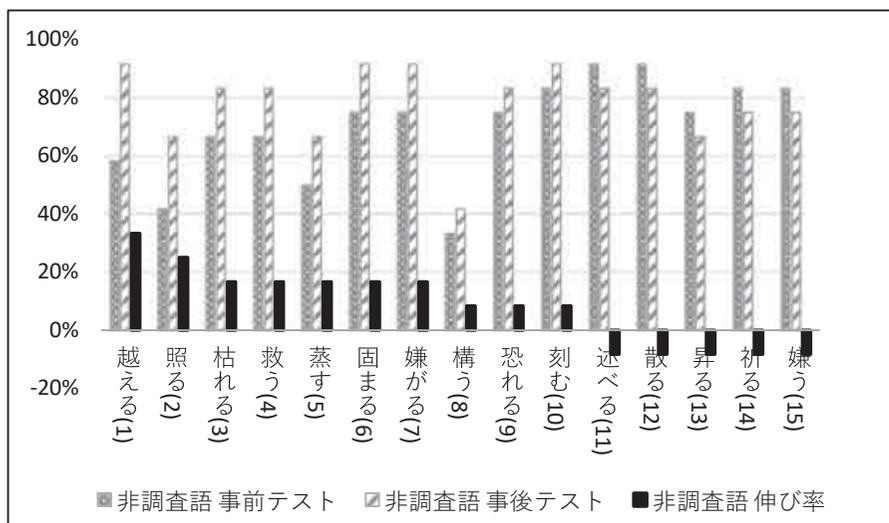


図4 非調査語 事前／事後テスト正答率変化

8. アンケート結果

アンケートでは、日本語学校授業以外での日本語の使用や勉強について尋ねるものと、今回の授業に対する感想、の大きく2つの分野に分け質問した。日本語の使用などからの回答から、学習者が授業以外でどの程度日本語に触れているのか、新たな語との接触はどの程度なのかを推測したい。そのうえで、今回のような、語の接触方法を設定し、意図的に接触回数を増やした練習についてどのような感想を持ったのかを見ていきたい。なお、アンケートについては、調査分析の対象者のみではなく、実施日に出席していた学生15人全員に答えてもらった。

8.1 日本語学習に関するアンケート結果

まず、彼らの日本語学校以外での日本語の勉強時間についてだが、平均して約30分～1時間と答える学生が多かった。次からは順に1～2時間、3～4時間、4時間以上という結果となった。学校以外の時間はその他の教科の勉強に使うと答えた学生も多かった。週末もどちらか一日は、一日中ずっと塾で授業があるという学生も少なくなく、日本語の勉強は学校での授業が主となっているようだった(図5)。日本語学校では1日45分×4コマの3時間授業である。また、学校以外の場面で日本語を使うかどうかという質問には、15人中12人が「はい」と答えたが、その使用場面は「買い物をするとき、レストランなどのお店で」というものが一番多かった(図6)。使用時間もアルバイトなどで正確にわかっている学生は1人で、その他は1～2時間、もしくは「時間にはできない／わからない」という回答が多かった(図7)。

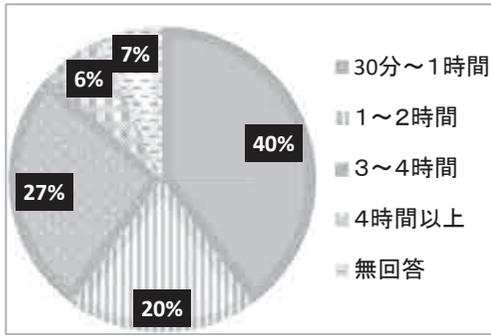


図5 日本語学校以外の勉強時間

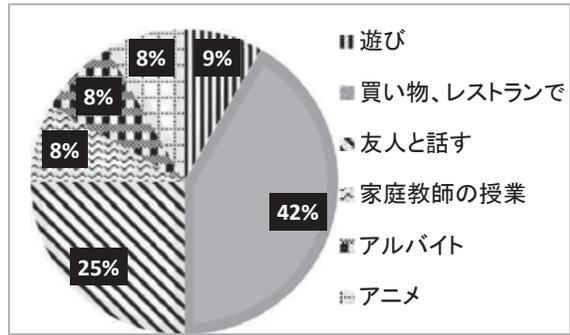


図6 日本語学校以外での日本語の使用場面

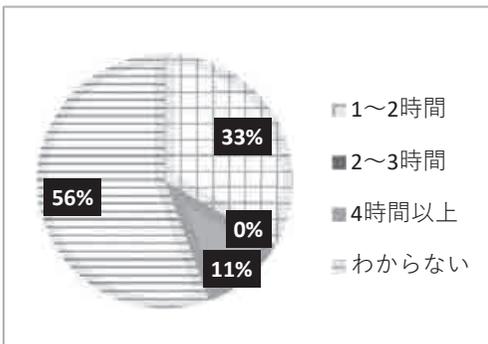


図7 日本語学校以外での日本語の使用時間

授業以外の勉強について何を勉強しているのかも調査した(図8)。複数回答可で、読解、文法、単語、聴解、作文の練習から選ばせるところ、最も多かったのは単語で、次いで文法や聴解の練習も票数が集まった。単語は暗記をしているという学生が多かった。その一方で、「自分で勉強する時に、分からない単語が出てきたらどうするか」という質問には、「携帯電話で調べる」という回答が最も多く、「辞書で調べる」という回答の約倍の数となった(図9)。この、「携帯電話で調べる」というものは、携帯電話での検索によって調べることを指すが、ウェブ上の辞書で詳しく意味や用法を見ているわけではなく、「ひらがなで入力したものが漢字で出てくる」「一言二言で説明がされているような簡易版の説明書きで、最初に出てきた語義を見る」といったような調べ方を意味している。

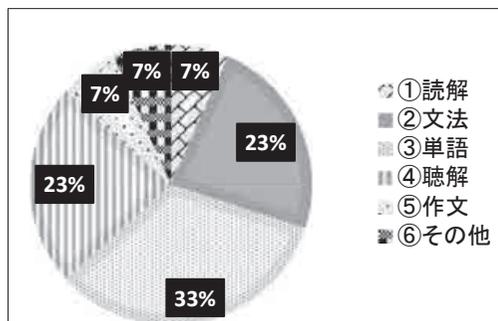


図8 授業以外での学習内容

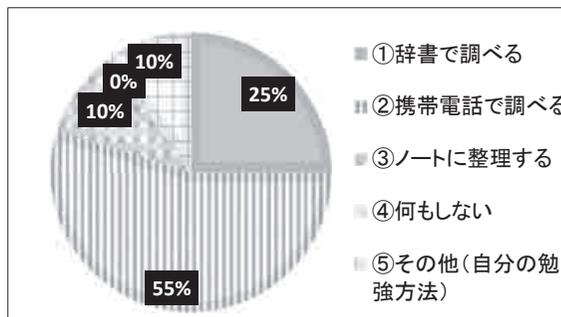


図9 新出語があった場合どうするか

8.2 調査で行った授業についてのアンケート結果

調査授業に関するアンケートでは、今回扱った語数について（授業全6回で15語）、授業内で扱った例文の数について（1語につき2～3文）、そして、今回のような授業の必要性について調査した。

まず、扱った語数については67%が「ちょうどいい」と答え、33%が「少ない」と答えた。「多い」と答えた学習者はいなかった。「少ない」と答えた学習者は、5人であったが、全員が上位・中位層の学生であった（表5）。

次に、授業で扱った例文数についてだが、こちらも67%が「ちょうどいい」と答えるという結果となった。しかし、例文数に関しては、「多い」が20%（3人）、「少ない」も13%（2人）おり、学習者によって違いが見られた。「多い」と感じた学生の中には下位層の学生も1人おり、授業内のタスクが少し難しく感じた可能性もある。

しかし、授業の必要性については87%が「必要だ」と答えていた。特に下位層の学生は全員が「必要だ」との回答であった。「不必要だ」と答えた学生は2人で、上・中位層の学生が一人ずつであったが、「自分でも学習できる」と感じたようであった。

自由記述部分を見てみると、授業が「必要だ」と答えた学習者からは「このような方法で覚えたら、単語を覚えるのはもっと簡単になる。」「(今回のようなやり方を)重要だと思った」という、方法に対して好意的な意見、また、「日本語能力が伸びた」というような達成感につながるような回答もあった。

表5 アンケート結果

	多い	ちょうどいい	少ない
語数について	0%	67% (10人)	33% (5人)
例文数について	20% (3人)	67% (10人)	13% (2人)
	必要	不必要	
授業の必要性	87% (13人)	13% (2人)	

※() 内人数は15人中の数

9. 考察

事後テストの結果、アンケート結果、および授業内の学習者の学習の様子から、今回の調査での調査目的であった、①語の接触回数を増加させる練習、②読解ではなく短文での練習、③語彙の意味調べという負担を取り除いた集中的な語彙学習、という3点について考察をしていきたい。

9.1 語の接触回数を増加させる練習

調査語の正答率が非調査語に比べ大きく上昇したことから、接触回数を増加させた語彙学習は中位・下位層にとって効果的であると言える。特に下位層は約48ポイントの正答率の上昇が見られ、大きな効果があったと言えそうである。下位層は学習意欲も低かったため、タスク等の負担が大きく、繰り返しても効果は出ないのではないかと思っていた。しかし、結果的には何度も繰り返したことが定着に繋がっていた。授業に対するアンケートでも、下位層全員が「このような授業が必要だ」と答えたことから、学習者自身もこのような繰り返し練習が自らの語彙力の上昇に繋がると考えたのではないだろうか。

また、語ごとの正答率において、調査語はすべての語が上昇したのに対し非調査語は上昇も見られたものの下降してしまった語も見られた。下位層の回答の中には調査語の問題のみ答えられていたというものもあり、複数回接触させる練習が、学習意欲の低い下位層の学生にも効果があったことが考えられる。事後テストを行ったことで、学習者自身が「繰り返し練習した語は覚えられているのだ」という実感ができたのではないかという推測もできる。

9.2 短文での練習

読解付随での語彙学習が多い中、今回は学習意欲の低い学生への練習効果を見るため、学習者への負荷を考慮し、長文ではなく短文での提示・練習を行うことにしていた。短文になると、文の前後の状況がわかりにくく、語の意味理解において難しさを残す可能性もあった。しかし、アンケートでは授業内で一つの語に提示した例文数は「ちょうどいい」という学生が約7割おり、1つの例文ではなく2~3つの例文を提示したことで語の意味理解に繋がっていたと考えられそうである。また、短文であったことで同じような長さの文作成などのタスクを実施できた。語の産出練習の点から見ても、短文であったことは有効だったと考える。

9.3 負担を取り除いた集中的な語彙学習

田丸(1998)が語彙の意味調べの比重が大きいと学習者の負担となりかねないと指摘していたことから、それらを授業内に行うことで負担を取り除けばクラスの中位・下位の学生に影響があるのかどうかを調べることにしていた。結果として、この「負担を取り除いた」という点が、学習者の語彙学習へのハードルを低くし、取り組みやすくしたのではないかと推測できる。繰り返し練習への必要性にもつながるが、学習者は教師からの語についての説明等も含め今回の授業は「必要だ」としており、また「このような方法は覚えやすい」と回答していた。特に中位層から

は肯定的な意見が多く、語に関する知識の整理、その上での繰り返し練習という取り組みに有効性を感じたのではないだろうか。さらに、授業の必要性に対して「不必要だ」と答えた上位層は1人のみで、その他3人は「必要だ」と回答していた。負担を取り除いた取り組みは難易度が下がるため、上位層からは不満が出ることも予想されたが、上位層の学習者に質問してみたところ「いままでは覚えた語を勘で活用しており、正しいかどうか不安な時もあった。」というような意見があり、上位層でもある程度の解説と練習によって自信をもって産出できるようになるという点で今回の調査授業の有効性を感じたようだ。ただ、上位層は、扱った語数（15語）について「少ない」と回答していた学習者が多く、授業が「必要」と考えていることから、より多くの語の練習を求めていることがうかがえる。授業内でどれくらいの語を扱うのかは、学習者のレベルによる検討が必要であると言えるだろう。

さらに、接触方法についても考えておきたい。田丸（1998）の報告にもあったが、今回の調査授業でも授業内の学生の反応は大変積極的で、中位・下位層の学生でも熱心に取り組む様子が観察できた。特に、手順⑩(表2)のパワーポイントを使用した復習への反応が良かった。この復習では、学生はパワーポイントの画面を見ながらクイズ感覚で取り組んでいたと思う。しかし、実際は例文を見て、あてはまる語と語形を考え、答えの例文を音読するという、いくつかの練習の組み合わせとなっていたため、有効な練習であったとも言えるだろう。

加えて、彼らの普段の日本語使用状況、日本語学校以外での日本語の勉強についても考えてみたい。多くの学習者が、日本語学校以外での日本語の使用時間は「わからない」としていたが、使用する場面は「買い物・レストランで」との答えが多かった。このことから、学習者は日本語学校以外では生活に必要最低限の日本語の使用しかないのではないかと推測できる。日本語の学習時間も授業外では30分～1時間程度だという学生が多く、筆者が思っていたよりも授業外での日本語学習は少なかった。このような状況の中で、語彙学習を学生の自学に任せると、不正確な情報も紛れているような携帯電話での簡易的な意味を調べで終わってしまうのではないかと、ということも容易く想像ができる。今回の調査授業では、語の形の確認から始まり、意味の確認、文法の確認なども行った。テスト・アンケート結果から、授業内での語に関する解説や、集中的な練習の必要性も示されているであろう。

10. まとめ／今後の課題

今回の調査では、クラスの中位・下位層の学生に焦点をあて、接触回数を増加させた語彙学習が効果的かどうかを調査した。結果として、学習意欲が低かった下位層の学生でも、テストでの正答率の上昇が見られたことから、接触回数を増加させた練習は彼らにとって有効であることがわかった。それと同時に、どのように接触させるかということも重要であることがわかった。語の解説からはじまり、音読や文作成、そしてパワーポイント等を使ったクイズ形式など、今回はさまざまな接触方法を設定したが、そのことが学習者の語彙学習への負担を軽くし、クラスの中位・下位の学生でも積極的に取り組めた可能性が示唆される。

また、下位層の非調査語正答率が上がったことも指摘したい。明確な理由はわからないが、事

前テストでは時間内に答えきれなかった学生が、調査語がわかることで読むスピードが上がり、テストにおいて「読める」「わかる」ようになったため、事後テストでは諦めずにテストに集中できたとも考えられる。

しかしながら、このような授業は大変な時間を要し、効率という面においては良くない面もある。また、学生が教師からの語の説明に頼り切ってしまう自律学習につながらない可能性もでてきてしまう。学習意欲の低い学生にとって、はじめは語彙学習のハードルを教師が低くすることは重要であることが今回の調査から明らかになったが、今後は、「何を」「どこまで」授業内で行うべきなのか、授業外学習についても考慮に入れた効果的な学習方法を考えていく必要があるだろう。また、下位層の学生がなぜ積極的に取り組めたのかという部分についても、より詳細なアンケートの実施等で分析すべきであると言えるだろう。

【参考文献】

- 北原 保雄 編(2010)『明鏡辞典 第二版』大修館書店
小泉保 他(1989)『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店
田丸 淑子 (1998)「語彙に焦点をあてた授業：非漢字系中級中・後期日本語学習者の場合」『Working papers on language acquisition and education』9巻, 78-87
平山 允子 (2016)「中級の漢字語彙学習を目指した授業の実践報告」『日本語教育方法研究会誌』 Vol.22 No.3, 6-7
森山仁美 (2013)「中国母語話者の動詞語彙産出—9人の学習者の事例から—」『日本語教育方法研究会誌』 vol.20 No.2, 34-35
森山仁美(2015)「文脈における和語動詞語彙の産出—中国語母語話者のケース—」『日本語教育』161号, 2-14
Susanne, R. (1999) The Effect of Exposure Frequency on Intermediate Language Learners' Incidental Vocabulary Acquisition and Retention Through Reading, *Stud Second Lang Acquis*, 21, pp.589-619

(日本文学専攻 博士課程前期2年)

資料 1 実施テスト内容

新完全マスター漢字 N2 31-40 回 学習チェック (訓読み動詞)

名前: _____

問題: 空いているところに、下から漢字を選んで書きなさい。()に読み方を書きなさい。

例) この公式を 解く と 問題 が簡単に解けますよ。 (とく)

- 1) この時計は古いので、毎日ねじを _____ なければならない。 ()
- 2) 東京は毎日 _____ 暑い日が続いている。 ()
- 3) 学校の帰りに、喫茶店に _____ てコーヒーを飲んだ。 ()
- 4) 水平線に今年初めての太陽が _____ た。 ()
- 5) 届いた荷物を開けると、お菓子がいっぱい _____ っていた。 ()
- 6) 雨がやんで急に日が _____ てきた。 ()
- 7) 中学生のころはよく親に _____ て怒られた。 ()
- 8) 彼は、会議でその問題について意見を _____ た。 ()
- 9) この映画の時間は4時間にも _____ 長いものです。 ()
- 10) 今きれいに咲いている花も、いつかは _____ てしまう。 ()

例) とく / むす およぶ ちる まく のべる よる のぼる さからう
つまる てる

- 1 1) 台風の被害を受けた地域に _____ た寄付金は 3000 万円を超えた。
()
- 1 2) 両親に結婚を _____ てもらった。
()
- 1 3) 桜の花びらを拾って、本の中に _____ だ。
()
- 1 4) 社員を新しく 2 名 _____ た。
()
- 1 5) この時計はもう 100 年も休まず時を _____ ている。
()
- 1 6) どうぞもう _____ てください。すぐ失礼しますので。
()
- 1 7) 液体の温度を下げていくと _____ て固体になる。
()

18) _____ がる部下に無理に酒を飲ませる上司は、上司として失格だ。

()

19) 旅行している間に、植木鉢の花が _____ てしまった。

()

20) どうとう私たちの _____ ていた事件が起きてしまった。

()

おそれる とる かれる かまう よせる いやがる はさむ かたまる
ゆるす きぎむ

21) 大雨の被害を受け、田や畑が _____ てしまった。 ()

22) 病気の小鳥を世話していたが、結局 _____ てやれなかった。 ()

23) 近くの神社で、生まれたばかりお赤ん坊の成長を _____ た。 ()

24) 結婚しいに客を何人 _____ か、相談して決めた。 ()

25) 日本人の平均身長は、この半年でかなり _____ た。 ()

26) 地球上で海が _____ 面積の割合は、全体のおよそ 10 分の 7 だと言われている。 ()

27) 20 年後には 65 歳以上の人の割合が 20%を _____ という。 ()

28) 姉は人込みを _____ て週末は家にいることが多い。 ()

29) 私はいい友達に _____ て幸せだ。 ()

30) これ以上荷物を _____ だら危険だ。 ()

あれる こえる すくう つむ しめる のびる きらう いのる
めぐまれる まねく

第 33 回 650 まで

I QD を書いて、指示された数の漢字を添って文を書きなさい、QD34

① ② ③ _____

④ ⑤ _____

II □の中の漢字を添って、文を完成させなさい、□部分の漢字も書きなさい、

Ⅲ 敬 親 期 折 器

① 近くの神社で、生まれたばかりの赤ちゃんの成長を () た。

② 雨が降ったので、日曜日是一日中家に () た。

③ 突然だが「マナー」つけて、そ () だ。

④ 朝の新鮮な空気を胸一杯に () た。

⑤ 新築の小屋を世話していたが、結局 () てやれなかった。

⑥ 手が痒って、花紙を添として () しまいました。

III □には同じ漢字が入ります。解答欄に漢字と□部分の読み方を書きなさい。

① 入居管理用で入居□可を取った。 / □部分に読み方を□してもらった。

② 当時、彼が犯人ではないかと□われた。 / □部分に読み方を□してもらった。

③ 裁判で市民側の審□はすべて認められた。 / 卒業前の学生は期□を□めて教壇活動を開始した。

④ この俳優は□装がイマイチ。 / 彼の□装は装飾的で、聞いている人の心を打った。

①	a	_____
	b	_____
②	c	_____
	d	_____
③	e	_____
	f	_____
④	g	_____
	h	_____

④4—ステップ3

⑤ 右側の□が不足すると、ザリリンの重傷が上がる。 / □裏は月共に支給されることになっている。

⑥

IV _____ 部分の漢字は読み仮名を、平仮名は漢字を(読み仮名)書きなさい。

① 誰いいたにもつを掲げてみると、目そうなお腹子がいつはいい泣まっていた。

② 3か月でコンピュータの運用からおろさるまで学んだ。

③ カルピウムを含んだ食品は体にいい。

④ 右側の乗客を受け入れた地域に寄せられた寄付金の合計は3,000万円を越えた。

⑤ この言んがくは、ぶつが上肩したとかでいいで計算したものだ。

⑥ 捜査記録にいじようがないゆを解さるために、旧態をあんないでもらった。

a	b	c	d	e
f	g	h	i	j
k	l	m	n	o

V _____ 部分の漢字、または読み仮名を選びなさい。

① 大きな青い楕圓を目印に、目的の店を疑した。

1 ぬしらし 2 めじらし 3 もくいん 4 めど

② 軽いスポーツで遊せを測した。

1 液 2 汁 3 遊 4 汗

③ 養育は階ごりの置が思えないくらい大きな響だ。

1 かわ 2 きし 3 しぎ 4 がん

④ アストで客々が正しい時は差を付ける。

1 円 2 球 3 玉 4 丸

⑤ 授業料は前期と後期に分割して支払うことができます。

1 ぶんわり 2 ぶんわり 3 ぶんかつ 4 ぶんかつ

④4—ステップ3 ⑤4

☆今日の漢字 (訓読み動詞)

名前 _____

読み方	音読み：	訓読み：
意味		
使い方		
例文		

読み方	音読み：	訓読み：
意味		
使い方		
例文		

読み方	音読み：	訓読み：
意味		
使い方		
例文		

問題 今日練習した単語を使って、文を作ってください。

- 1) けがをして病院へ行ったら、_____に_____を_____てくれた。
- 2) もう要らない_____を_____てしまった。
- 3) _____に_____て、わたしは幸せです。
- 4) 日本は_____に_____国であるが、最近は新たな資源が発見されたそうだ。
- 5) 景気の悪化で、あの会社は今年_____を_____ないそうだ。
- 6) 経済問題に対して、政府がどんな_____を_____か注目されている。

資料4 授業内容 手順⑦・⑧ 復習プリント

問題1 卷く／恵まれる／採る を使って文を完成させなさい。

- 1) あの大学は有名だが、留学生をあまり_____ないことで知られている。
- 2) この募金は_____子供たちのために使われる。
- 3) きれいな包装紙で包んだり、リボン_____プレゼントは喜ばれるが、過剰包装だと思う人もいる。
- 4) 問題が起きたとき、どんな_____を_____ばいいか考えることが重要だ。
- 5) このコードは長くて危ないので、_____片づけてしまおう。
- 6) 研修旅行は天候_____、無事に終了することができた。

問題2 読み方を書きなさい。

- 1) 卷く () 2) 恵まれる () 3) 採る ()

問題3 卷く／恵まれる／採るを使って全文作ってみましょう。
(※例文とすべて同じにするのはだめです。)

- 1) 卷く

- 2) 恵まれる

- 3) 採る

資料5 授業内容 手順⑩ パワーポイント例

第1問

・けがをして病院へ行ったら、
傷口に_____を_____てくれた。

答え：
けがをして病院へ行ったら、
傷口に 包帯 を 巻き てくれた。

第2問

・_____に_____て、
わたしは幸せです。

答え：
友人 に 恵まれ て、
わたしは幸せです。